

事業報告

事業名：建築文化に触れる「日本大学生産工学部図書館（現：日本大学図書館生産工学部分館） 見学会」

実施日：2023年9月1日（金）

実施場所：日本大学図書館生産工学部分館（千葉県習志野市泉町1）

講師：日本大学生産工学部建築工学科

教授 藤本利昭先生（構造）、准教授 亀井靖子先生（計画）、准教授 三上功生先生（設備）

申込み数：40名

参加人数：31名

内訳 建築学会：11名、JIA:3名、建築士会：2名、JSCA:1名、一般：10名、その他：4名

プログラム

9：40 受付（図書館入口）

10：00 開会 支所長挨拶（小島聡/千葉支所長）

10：05 講師紹介・諸注意（牧野嶋彩子/千葉支所幹事）

10：10 図書館見学 A班：亀井先生 B班：藤本先生 C班：三上先生 誘導案内：千葉支所幹事

11：30 質疑応答

11：55 閉会 支所長挨拶（小島聡/千葉支所長）





発行所 郵便番号 260-8628
千葉市中央区中央4丁目14番10
千葉日报社
電話 043(222)9211
©2023

9月7日(木)

習志野の日大図書館で見学会 ドコモモ・ジャパン選定

県立中央図書館など千葉市内で多くの仕事を手がけた建築家の大高正人(1923〜2010年)が設計した「日本大学図書館生産工學部分館」(習志野市)で、一般市民も参加した見学会が1日、開かれた。

近代建築の保存に取り組むドコモモ・ジャパンが今年6月「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」として同館の選定を公表。見学会は、それを受け日本建築学会関東支部千葉支所が主催。建築関係者や市民など約30人が参加した。

同館は1973年築。鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄筋コンクリート造、PSコンクリート造。地下1階・地上8階建て。

高度経済成長期の日本の建築界をけん引した大高の代表的な建築。現場で打設された鉄骨鉄筋コンクリートの架構の上に、工場生産によるコンクリート部材で組み上げた3階部分を載せ、その下に3階部分を配置。空中架構形式を採用する唯一の現存建物という。

ドコモモ・ジャパンは「生産性や施工性の追求と同時に日本建築の美しさを継承した柱・梁(はり)構造は古建築を連想させる」と紹介している。

見学会では同大生産工學部建築工學科の亀井靖子准教授、藤本利昭教



日本大学図書館生産工學部分館を見学する参加者

授、三上功生准教授が講師を務めた。千葉市内で建築事務所を営む飯沼竹一さん(61)は「初めて中に入った。(空間のつくり方などが)面白い。今後も残してほしい」と話していた。

ドコモモは、20世紀建築の重要潮流だったモダン・ムーブメントにかかわる建物と環境の保存のための国際学術組織。研究者や建築家などが参加。近代建築を再評価する活動や、取り壊し予定の近代建築の保存活動に取り組んでいる。

同大生産工學部は10日、習志野、船橋両市民、ドコモモ・ジャパン会員を対象(同伴者は両市民でなくても可)にした選定記念解説付き見学会を開く。午後3〜5時。9日まで参加登録が必要。登録サイトは、<https://forms.gle/ucjGMGVaPVBSpFTp7>



日本大学図書館生産工學部分館の内部。奥の上階は小さい柱で吊り下げられている構造。受け付けカウンターのある手前部分の床は下部にある柱で支えられている